

欧州と周辺地域における日本語教育とヨーロッパ日本語教師会

ヨーロッパ日本語教師会会長・ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院 岩崎 典子

はじめに

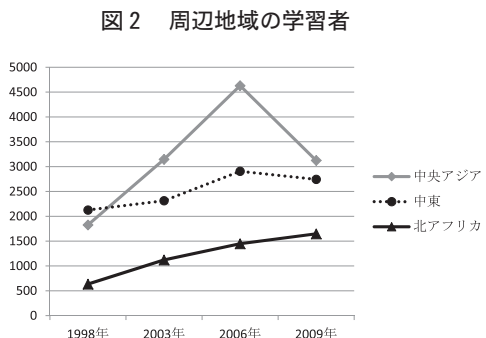
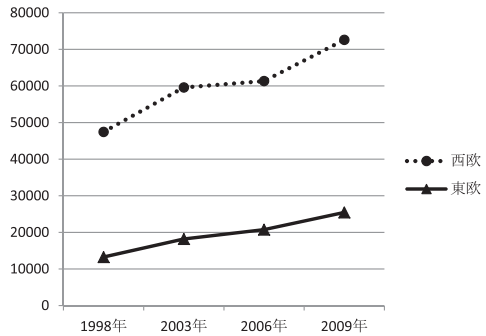
欧州は、周知の通り、多様な国々が共存している。その多様な国々および周辺国のネットワークを確立し日本語教育の振興を図るためにヨーロッパ日本語教師会が発足した。以下、ヨーロッパ日本語教師会 (Association of Japanese Language Teachers in Europe, e.V. (以下AJE))と欧州地域の日本語教育の動向を紹介したい。

ヨーロッパ日本語教師会

AJEは一九九五年に発足した。発起人となったのは、一九九四年の国際交流基金による「在外邦人日本語研修」に参加した一三名の日本語教育関係者(欧州一カ国から参加)であった。当会は、欧州と日本の相互理解を深め、会員間の情報交換や相互協力を促進するネットワークを確立し、欧州地域における日本語教育の振興を図るべく活動を行っている。二〇〇九年にはドイツにおいて公益社団法人となった。

主な活動としては、年に一度のヨーロッパ日本語教育シンポジウムの開催、日本を含む欧州を越えた日本語教育関係機関とのネットワークの形成、欧州の日本語教育事情に関する情報などの収集および提供、年に三度のニューズレターの発行などがある。会の発足以降、一六回のシンポジウムを欧州各地で開催し、論集を発行している。

当会は二〇一三年五月現在、三八カ国に約三五〇名の会員を有する。うち約三〇カ国が欧州地域であるが、欧州外在住で欧州の日本語教育に関心を持つ会員も多い。欧州と周辺地域では、西欧(アイルランド、英国、イタリア、オランダ、キプロス、ギリシャ、ドイツ、オーストリア、オランダ、スイス、スペイン、スウェーデン、フィンランド、フランス、ベルギー、マルタ、ノルウェー、ルクセンブルグ)の会員が多いが、東欧(ウクライナ、エストニア、クロアチア、スロベニア、スロバキア、チェコ、ハンガリー、ポーランド、ルーマニア、ロシア)の他、東欧に隣接する中央アジア(ウズベキスタン、キルギス)



では、二〇〇〇年から中等教育で選択できる外国語が増え、日本語も奨励されるようになったことが大きく影響したようだ。

交流基金の統計にはAJE会員が在住していない国も含まれるが、会員による各地域における日本語教育への尽力が貢献したことは間違いないだろう。

AJEおよび各地域の教師会や研究会などの活動

AJEの現在の活動としては、CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)の教育現場における活用を考えるAJE-CEFRプロジェクトを行っている。これを受けて、二〇一二年にはロンドンでCEFRとJF日本語教育スタンダードをテーマとしたワークショップを開催し、口頭発表、意見交換や議論を行った。その他にもOJAE(日本語口頭表現能力評価法)の研究開発グループや、AJEネットワークを生かした会員による活動に、CEFRのBレベルの能力と言語活動を明らかにすべくベルギーとフランスの大学が共同研究

を行っている「ルーヴァン・カトリック大学・グルノーブル・スタンダール第三大学共同プロジェクト」がある。いずれも複数の国に在住する会員が関わっているプロジェクトである。さらに、AJEプロジェクトとして、中等教育から高等教育へのより良い連携を目指すJ-IGAPプロジェクトも進行中である。

年に一度開催しているヨーロッパ日本語教育シンポジウムは、通常地域の日本語教育関係団体と共催で行っている。AJEの会員でもあり、地域の団体でも活躍している会員が中心となって開催されることが多い。

今年(二〇一〇年)に発足したスペイン日本語教師会(APE)との共催で九月にマドリッドで行う。スペインも急速に学習者が増加している地域(一九九八年から二〇〇九年にかけて三倍)で、AJE会員でもあるAPJEの鈴木裕子会長は、恐らくはアニメなどのサブカルチャーの影響で学習者数が伸び続けているのだろうと分析している。今回は、一三〇名もの会員が活発に活動をしているAPJEとAJEがシンポジウムを共催できることになり、喜ばしい限りである。

学習者の増加の顕著な他の地域でも地域日本語教師会の活動やサブカルチャーの影響が大きいようだ。他にも欧州の日本語教育に関するグループは少なくとも三三ある。例えば、ドイツには複数の教師会があり、「ドイツ語圏大学日本語教育研究会」(会員六四名)、「ドイツVHS日本語講師の会(VHS:一般成人教育機関)」(ほぼ一〇〇名)、そして

と中東(トルコ)の会員もいる。加えて、北アフリカからの参加も奨励している。

欧州地域の日本語学習者数

欧州と周辺国でもほとんどの国で学習者数が伸びている。国際交流基金による一九九八年から二〇〇九年にわたる調査をもとに西欧・東欧(図1)と周辺地域(図2)の学習者数を示した。最も学習者数が多いのは、英国、フランス、ドイツで、中東において学習者数が顕著に多いのはトルコである。二〇〇六年から二〇〇九年に学習者が減少している地域もあるものの、一九九八年と比較すれば、確実に増加傾向にある。

増加が顕著なのはアイルランド、エストニア、オーストリア、スイス、スペイン、スウェーデン、チェコ、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、ブルガリア、ポーランド、ポルトガル、ルーマニアで、いずれも一九九八年から二〇〇九年にかけて約二・一五倍の学習者数が報告されている。約一五倍の伸びがあったアイルランド(一八五名から二七五七名)

「ドイツ語圏中等教育日本語教師会」があり、それぞれが活発に活動している。

東欧では、セルビア日本語表現教育研究会で活躍する会員も貢献して、今年セルビア日本学会が発足した。後述のとおりAJEが近年重視している日本語教育と日本の連携の推進という点からも喜ばしいことである。

また、キルギスでは、キルギス日本語教師会が活動しているが、二〇〇八年からは「チュルク諸国日本語教育セミナー(アゼルバイジャン、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、トルクメニスタン、トルコ)」が開催され、チュルク諸語と日本語の類似性を生かした日本語教育に関する議論・研究が行われている。

AJEとEASJ(ヨーロッパ日本研究協会)

二〇一一年には、タリン(エストニア)で開催されたEASJの大会で、同大会の分科会としてヨーロッパ日本語教育シンポジウムを行い、日本語教育と欧州における日本学との連携も進めている。来年もリュブリアーナ(スロベニア)で開催されるEASJの大会に合流するというかたちでのシンポジウム開催を計画している。今後も日本語教育と日本学の連携を強めていきたい。

おわりに

AJEは欧州と周辺地域における日本語教育の発展に努めてきた。この活動は、会員の積極的な参加がベースとなっはいるが、国際交流基金による多大なる支援をはじめ、外部の団体による支援や協力があって成し得てきたことである。この場をかりて心から感謝の意を表したい。